

生協のなかま

発行 全国生協労働組合連合会

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-1-9 南部ビル3F
TEL03 (3408) 0067 FAX03 (3408) 8955
http://cwu.jp/
E-mail: QYG03057@nifty.ne.jp
毎月1日1回発行 定価1部30円(送料別)
組合員の本紙購読料は組合費に含む

編集責任者: 桑田富夫

第481号 1月号

2011年1月1日

写真 宜野湾市提供

ウチナンチュからの メッセーヅ



うえま さとし
コープ九州 上間 哲さん

沖縄を離れて20年。沖縄の基地問題が一向に解決しないことに憤り、心を痛めながらも、何もできない自分にはがゆさを感じる日々です。先の沖縄県

知事選挙では、普天間基地撤去、辺野古移設反対を掲げる伊波さんが健闘しながらも届かなかったことが悔しくてなりません。その選挙結果を伝える日の新聞に掲載された全国世論調査結果、「普天間基地は現状維持がよい」と答えた人が36%で最多」（日本経済新聞11/29付）という記事にも落胆しました。「世界で最も危険な基地」のそばで、くらしと命を脅かされ、騒音被害で苦しめられている方々の思いを省みない国民、他人の痛みを自分の痛みと感じない国民がこんなにいるの？

私は、県内移設反対は当然ですが、他府県への移設にも反対です。基地被害を全国に拡散すればよいとは思っていません。米軍基地が抑止力となって日本を守っているというのはウソです。沖縄の方言でウソのことを「ユクシ」と言います。「抑止はユクシ！」（沖縄の大学教授の方のうけうりですが）。生協で働く全国のなかまが、「米軍基地撤去」で一一致し、生協労連に結集してたたかうことを期待します。

なかいまひろかず
11月28日に沖縄県知事選挙がおこなわれ、現職の仲井眞弘多氏が僅差で再選しましたが、普天間飛行場の即時撤退、名護市辺野古崎地区へ米軍基地建設反対のたたかいが、これからがヤマ場を迎えます。「米軍普天間飛行場の無条件撤去」「海兵隊の沖縄からの撤退」「日米安保条約を平和友好条約に改めるべき」は多数のウチナンチュ（沖縄県民）の思いです。しかし、日本全体で沖縄の現状についての理解が進んでいるとはいえません。

沖縄出身の、いまは沖縄を出て生協で働いているふたりのなかまからのメッセージです。生協で働くなかまのみなさん、どうかもっと、沖縄の現実に関心を持ってください。ウチナンチュの思いに耳を傾けてください。

(続きは4・5面)



せど れいこ
コープあいち 勢頭 禮子さん

私は1972年復帰の半年後に上京しました。今の沖縄はそのときと状況がなんら変わっていないことにごく然としています。普天間基地周辺に住む友人は「東京の人たちが、沖縄は大変ねと他人

事のように言うのがつらい。このままでは自分の嫌なことを他人に押し付けてはいけないという沖縄人の我慢強さが負の財産として子や孫に引き継がれてしまう」と話しています。基地撤去だけでなく、安保条約を破棄し、基地のない平和な豊かなふるさと沖縄になるよう、そして「沖縄に関心を持って欲しい」という友人のためにも、自分にできることを頑張ります。